



第49回日本美容外科学会総会・第157回学術集会

日本美容外科学会 (JSAPS)

ランチョンセミナー1

外科と注入の コンビネーション治療が もたらすメリットとベネフィット

～注入治療との複合による外科手術の長期評価と患者満足度の向上～



座長

當山 拓也 先生
(当山美容形成外科)

第1会場

北棟2階 Grand ballroom B

琉球ホテル&リゾート 名城ビーチ

2026 THU

11/5

11:40-12:40

講演

1



演者

佐藤 もも子 先生
(Injection lab.)

咬筋治療を含む非外科的輪郭形成

—注入治療によるアプローチと患者選択—

Allergan AestheticsのBotox Vistaに新たに適応追加された咬筋に対するボツリヌストキシン治療を含む注入治療を組み合わせることによって、※ 輪郭の幅、顔貌の視覚的重心、立体感、フェイスラインの印象を調整した症例を提示し、比較的少ない侵襲でどのような変化が期待できるかを紹介する。

また、注入治療のみで良好な結果を得やすい患者の特徴、治療目標の設定、適応判断の際に考慮すべきポイントについて、実際の診療経験をもとに概説、単回の治療効果だけでなく、経時的な変化を確認しながら必要に応じて治療を組み合わせることの意義や、患者との信頼関係を構築し、継続的なフォローアップにつなげるためのクリニックでの工夫についても触れる。

※組み合わせ治療が含まれる場合、安全性・有効性・どれくらい期間をおくべきなのか等は検証されておりません。

講演

2



演者

山脇 孝徳 先生
(YOUR FACE)

外科医も患者も幸せな長期経過観察

—注入治療がもたらした予想外の副産物—

形成外科・美容外科において、手術後患者の長期経過を観察することは重要である一方、術後経過が良好な患者ほど再診の必要性を感じにくく、長期成績を十分に評価する機会は限られている。

注入治療は効果持続期間に限りがあるため、患者の定期的な再診につながりやすい。外科治療と注入治療を組み合わせることで、単回手術で終わらない継続的な診療関係を構築し、術者・患者双方に負担の少ない長期経過観察が可能となる。

本講演では、その意義と外科治療の評価・進化への応用について考察する。